



教育振興基本計画

社会の現状や 2030年以降の変化等を踏まえ、取り組むべき課題

【教育をめぐる状況変化による子供・若者をめぐる課題】

子供が自然の中で豊かな体験をしたり、文化芸術を体験して感性を豊かにしたりする機会が限られており、地域・家庭と連携・協働しつ、体験活動の機会を確保していく必要性について指摘がなされている。

福井県教育振興基本計画（令和2～6年度）

【方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成】

1. ふるさと教育の推進 ① 体験活動の充実

里山里海湖に触れ親しむため、「福井ふるさと学びの森・海湖」において、自然観察や里山体験などのプログラムを提供します。

【方針8の3. 地域との連携・協働の推進】

本県では、地域住民が学校運営に参画する「家庭・地域・学校協議会」を公立小・中学校に設置し、地域と学校をつなぐ役割を担う人材を配置するなど、地域と学校の連携・協働を推進しています。

第5次小浜市総合計画 改定基本計画

【取組内容 第2号 団体】

- ・ 地域団体や各種団体、ボランティア、非営利団体(NPO)などは、「地域力」を発揮する主たる組織であるという意識を持ち、地域貢献に取り組むとともに、団体を構成する市民の親睦・協働に努め、効果的に「地域力」を発揮できるよう努めます。

【国立若狭湾青少年自然の家 施設の使命】

海を中心に、海を取り巻く自然や文化、歴史、産業に注目し、それらを素材に、学校や家庭では日頃体験できない体験活動を 提供することを通して、次代を担う自立（自律）した青少年の 育成と持続可能な地域づくりに寄与する。

【教育テーマ】 豊かな海を守るため、身近な私達の生活の中から改善していく方法を一緒に考えるプログラムを開発する。

【活動プログラム】

- ・ 磯遊び
- ・ スノーケリング
- ・ ビーチコーミング

【Point① 個性化】

- ・ 地域の学校と連携をして総合的な学習、学級活動、教科授業の支援をすること。（ビーチコーミング）
- ・ 教育事業から、若狭湾の立地を活かした研修支援を実施すること（磯遊び・スノーケリング）

【令和5年度までに選定】

教育テーマに基づいたプログラムは内容を定める。①対象 ②活動内容 ③指導内容 ④連携内容 ⑤連携方法 など

教育テーマに基づいたプログラムの開発・拡充のプロセス

教育事業

1. 専門的な知見を交えながら教育テーマに対応するプログラム開発を行い、実施する。
◇ 若狭湾専門家委員会
びわこ成蹊スポーツ大副学長 中野氏
あわしまマリンパーク元館長 白井氏
やまなみ保育園元園長 大森氏
本部研究センター
4. 研修支援でえられた知識や実績から事業、支援内容や方法を評価する。
⇒職員検討会を経て、専門家委員会で意見交換をし、プログラムをブラッシュアップさせる。

【Point② 高度化】

地域の専門的な指導者や地域の事情に詳しい教育者等を交えて、専門家会議や事業検討会を立ち上げる。教育事業と研修支援を連携させて、多くの青少年に専門性の高いプログラムを提供する。

研修支援

2. 教育事業で試行したプログラムを一般化し、十分な支援を行いながら、広く青少年に提供する。
◇ 職員は、専門性を活かしながら、利用団体の代表と、プログラムの打ち合わせを密にして、地域の課題に迫る手立てを考え実施する。
3. 得られた知見や実績をとりまとめる。

【第5期中間目標・計画開始まで実施】
教育事業から想起した研修支援を実施し、探究的興味関心を獲得する。

【Point③ 拠点化】

地域に貢献する ⇒ 設定したテーマにおいて全国 N01 施設となる

地域から理解・認知され積極的に活用されること。